

国名		フィジー共和国 (Republic of Fiji)	
主要な言語	英語(公用語)の他、フィジー語、ヒンディー語を使用		
人口学的データ	総人口(人)	92万1千人	
	15歳未満人口割合(%)	27.7%	
	65歳以上人口割合(%)	6.6%	
	平均寿命(歳)	70	
	5歳未満児死亡率(出生千対)	22	
	妊産婦死亡率(出生10万対)	30(調整値)	
	中等教育就学率(%)	男性(%) 79	女性(%) 88
	(UNICEF. State of the world children 2017, CIA. The World Factbook.2017.)		
主要な死因	1位 循環器疾患 2位 内分泌,栄養代謝疾患 3位 悪性新生物 4位 外傷 5位 循環器系疾患 (フィジー保健省,年次報告書2015)		
主要な民族	フィジー系56.8%、インド系37.5%、その他5.7%		
主要な宗教	プロテスタント45%、ヒンズー教27.9%、プロテスタント以外のキリスト教10.4%、ローマンカソリック9.1%、モスリム教6.3%、その他0.6%、なし0.3% (CIA. The World Factbook 2017)		
日本在留外国人(%)	230名(法務省在留外国人統計.2016.12月末)		
文化社会的特徴			
1. 特徴的な価値観・行動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フィジーを含む南太平洋を語るとき、キーワードとして用いられる言葉が「パシフィックウェイ」である緩やかな経済発展、コンセンサスによる意志の決定方式など、伝統文化を踏まえた独自の流儀を強調したものである。(外務省)</li> <li>・フィジー系では村制度が強く存在する。</li> <li>・フィジアンビレッジ訪問の際は、村の入口で帽子やサングラスをとるようにする。袖付きの上衣を着用し肩を露出しない。女性はズボンではなく、つま先まで隠れるスカートを着用するか(膝上を必ず隠す)、布を腰に巻く。(JICA)</li> <li>・ヤングナと呼ばれる、コショウ科の植物の根を叩いて潰したものを水で絞った薄茶色の液体がある。鎮静効果がある。フィジーの伝統社会においては、ヤングナは昔から儀式には欠かせず現在でも様々な式典においてこのヤングナの儀式が行われる。(外務省HP.2017.)</li> </ul>		
2. 重要な意思決定にあたって留意すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・父、祖父など家長が意思決定に大きな力をもつ。父親が一家の中心となることが多いが、祖父が身近にいる場合は祖父の意見も尊重される。父親がいる場合でも、年長者への敬意から、祖父にも家族内のできごとはずべて報告されることが多い。</li> <li>・特に地方では村制度が強く根付いており、村長が決定権を強く持つ。</li> </ul>		
3. 食文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フィジー系では伝統的にキャッサバ/タロイモが主食である。料理にココナッツを用いることも多い。インド系はロティと呼ばれるナンを薄くした焼き物をインドカレーとともに食する。</li> <li>・近年、伝統的な食事に代わり、ファーストフードや加工食品が多いいわゆる「欧米型」の食生活が急激に浸透した。これにより、新鮮な野菜、果物、肉、魚の摂取は相対的に低下する一方、米、砂糖、小麦粉、缶詰肉、清涼飲料水やビールなどの摂取が増加した(Curtis M. The Obesity Epidemic in the Pacific Islands. Jounal of Development and Social Transformation. 2004; (1): 37-42)</li> <li>・一般的に始業が8時、昼食が1時、就業が5時である。昼食までの時間が長いいため、モーニングティーを取る人が多い。(JICA HP.)</li> </ul>		
4. 衛生に関する価値観	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に離島では水は大変貴重であり、雨水をためて生活水にしている。身体の清潔は降雨時に行うこともある。</li> </ul>		
5. 受療および病人のケアに関する価値観・行動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に地方では、まずは伝統医療を試し、それでも治らないときに受診をする人が多い。</li> <li>・病人や高齢者は村で面倒を見るという考えも残っている。</li> </ul>		

6. 妊娠・出産に関する価値観・行動	<p>・病院出産が基本である。地方・離島で出産予定の妊婦の多くは、入院のため、予定日より早く病院施設近くの親族のもとに滞在することが多い。しかし、長く続く天候不順でボートが出せない等の理由で町に行けず、自宅出産を余儀なくされることもある。自宅出産の場合には、看護師に、地域から指名されたヘルスワーカーが協力する。近年、人口増加に伴い、滞在日数は1～2日である（河合利光，園田学園女子大学論文集 第48, 2014）</p> <p>・薬草とマッサージによる伝統的不妊治療がある。（河合利光，タッチングによる助産と治療ーフィジーの人の伝統的医療と健康観をめぐってー。園田学園女子大学論文集 48, 177-190, 2014. 村尾あかり。世界のHOTアングル大洋州地域「島の生活習慣病, JICAHP, 2017）</p>
7. 育児に関する価値観・行動	
8. 高齢者に関する価値観・行動	<p>・目上の人には敬意を示し、不服があっても口には出さない場合が多い。</p>
9. 終末期・葬儀に関する価値観・行動	
10. 本国の医療職・医療サービスに関する特徴	<p>・医療費は無料。政府配給の薬剤以外は有料。</p> <p>・看護師の海外流出(ブレインドレイン)が社会問題となっている。(Fiji Times)</p> <p>・離島やへき地では看護師が唯一の医療者として駐在していることもあり、人口当たりの看護師数は比較的少ない(Fiji Times. Brain drain concern, 2015, Fiji Times. Nurses move abroad, 2009, Fiji Times. Migration trend, 2014. Doyle, J. &amp; Roberts, G. Exit Interviews: Determining why Health Staff Leave. Human Resources for Health Knowledge Hub, 2012.)</p>
11. その他の保健医療に関する特徴	<p>・外部者、特に外国人の質問には質問者の期待通りに応えようとする傾向があり、特にフィジー系住民にその傾向がある。</p>
12. 教育制度	<p>初等教育6年(Class 1～8) 中等教育6年(Form 3～7) Form 4までが義務教育 Form 7の修了認定試験の合格者は大学1年次の教養課程(Foundation)修了と同等。 中等教育にてForm7を学ばなかった者は、大学で1年早い教養課程(Foundation)から始める。(外務省HP.世界の学校を見よう「フィジー共和国」.)</p> <p>・フィジーの高等教育機関は、南太平洋の12の国・地域(パプア・ニューギニアを除く)が共同で運営している太平洋大学(University of South Pacific)のメイン・キャンパスが首都スバにある。そのほかにはフィジー国立大学(Fiji National University)、国内唯一の私立大学としてのフィジー大学(The University of Fiji)、また宗教団体運営のフルトン大学やコーパスクリスティー教員養成大学、サンガン看護学校などがある。</p>
13. その他の特徴	

担当者: 田辺 幸子(藤田保健衛生大学看護学部)  
承認日: 2018.8.17